

一

次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。

ア

イ

ウ

の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましよう。

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、

「やっぱり何を書いてあるか、わかんないよ」と言っ

て、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。

ア

はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして

イ

にあやまるか、さも

なければまっ赤になって、こんなふう言っ

ウ

をしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい！」

でも、母さんはそこにはいなかった。

(芥藤洋『たったひとりの伝説』による。)

ア

イ

ウ

二

森内さんの学級では、次の「つりずきの宇宙人」という物語を読んで、思ったことや考えたことを発表し合うことになりました。これを読んで、あとの問いに答えましよう。

かぞえきれないほどある、宇宙の星の中には、宇宙人のすんでいる星もたくさんあった。その中には、いろんな、かわった宇宙人もすんでいた。

その星の宇宙人たちは、とてもつりがすきだった。宇宙船にのって、あちこちの、生物のいる星に出かけていき、その星にすんでいるさかなを、みんなつりあげてしまう。そのため、その宇宙人たちのすんでいる星の近所では、大きなさかなのいる星が、すくなくなってしまった。

「このごろ、あんまり大ものがかからない。」と宇宙人の一人は、腕をたたいていった。「おかげで、腕がなってしまうが、ない。」「この近所のつり場は、もうだめだ。」もう一人の宇宙人がいった。「どうだ。ひとつ、うんと遠くまで出かけていって、大きなえものはいそいな星をさがそうじゃないか。」

(右下に続く)

「そいつはいい。」こうして、二人の宇宙人は、宇宙船にのって、はるか遠くの宇宙に、さかなのいる星をさがしに出かけた。

キラキラ光る、あたたかい星のまわりをまわっている、小さな星の一つに、二人は、よさそうな場所を見つけた。「ここなら、だいぶんそうだぞ。」宇宙船のまどから、そのきれいな星を見おろしながら宇宙人はいった。

「ひとつ、メガネをのぞいた、もう一人の宇宙人は、うれしそうにさげんだ。「いるいる！——すごく大きなさかながたくさん、およいでいるぞ。」

「よし、それじゃ、ここにきめよう。」そういって、二人の宇宙人は、つりざおをとりだした。「エサは、なにがいいかな？」

(次のページに続く)

一 次は、「たったひとりの伝説」という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。

ウ の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましよう。

ア

イ

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、

「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」

と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。

ア

はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして

イ

にあやまるか、さも

ウ

をしがる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、「やはり、わかりません」と言いなおしなさい！」

でも、母さんはそこにはいなかった。

出てくる人物は三人。ここから、「おじいちゃんに失礼だ」といことがわかるね。

(斉藤洋「たったひとりの伝説」による。)

ア 母さん

イ おじいちゃん

ウ ぼく

二

森内さんの学級では、次の「つりずきの宇宙人」という物語を読んで、思ったことや考えたことを発表し合うことになりました。これを読んで、あとの問いに答えましよう。

かぞえきれないほどある、宇宙の星の中には、宇宙人のすんでいる星もたくさんあった。その中には、いろんな、かわった宇宙人もすんでいた。

その星の宇宙人たちは、とてもつりがすきだった。宇宙船にのって、あちこちの、生物のいる星に出かけていき、その星にすんでいるさかなを、みんなつりあげてしまう。

そのため、その宇宙人たちのすんでいる星の近所では、大きなさかなのいる星が、すくなくなっていました。

「このごろ、あんまり大ものがかからない。」と宇宙人の一人は、腕をたいていった。

「おかげで、腕がなってしまうが、ない。」

「この近所のつり場は、もうだめだ。」もう一人の宇宙人がいった。

「どうだ。ひとつ、うんと遠くまで出かけていって、大きなえもの、いそうな星さがそうじゃないか。」

(右下に続く)

「そいつはいい。」

こうして、二人の宇宙人は、宇宙船にのって、はるか遠くの宇宙に、さかなのいる星をさがしに出かけた。

キラキラ光る、あたたかい星のまわりをまわっている、小さな星の一つに、二人は、よさそうな場所を見つけた。

「ここなら、だいたいそうだぞ。」宇宙船のまどから、そのきれいな星を見おろしながら宇宙人はいった。

「ひとつ、メガネでのぞいてみる。」

メガネをのぞいた、もう一人の宇宙人は、うれしそうにさげんだ。

「いるいる！——すごく大きなさかながたくさん、およいでいるぞ。」

「よし、それじゃ、ここにきめよう。」

そういって、二人の宇宙人は、つりざおをとりだした。

「エサは、なにがいいかな？」

(次のページに続く)

〔参考〕過去の調査における正答率

問題番号	調査の名称（実施学年）	正答率(%)
一	平成22年度 全国学力・学習状況調査（6年）	65.3
二		73.3

〔参考〕出題の趣旨

一	文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むことができるかどうかをみる。
二	登場人物の行動や場面の移り変わりに注意しながら、あらすじを書くことができるかどうかをみる。

〔参考〕解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	自校の反応率(%)	正答
一	1 アに「母さん」，イに「おじいちゃん」，ウに「ぼく」と解答しているもの	53.5		◎
	2 アに「母さん」，イに「おじいちゃん」，ウに「ぼく」と同じ意味で，本文中の言葉を使って解答しているもの	11.8		○
	9 上記以外の解答	33.0		
	0 無解答	1.7		
二	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ① 「（宇宙人が）さかな（のいる星）をさがしに出かけた」ことについて触れている。 ② 40字以上，60字以内で書いている。			
	1 条件①，②のいずれも満たしているもの	61.2		◎
	2 条件①，②のいずれも満たしているが， 部の最後の三行を抜き出すことで解答しているもの	12.1		◎
	3 条件①は満たしているが，条件②は満たしていないもの	2.2		
	4 条件①に関して，「（宇宙人が）さかな（のいる星）をさがしに出かけた」ことについて触れているが，「宇宙人がコイノボリをつろうとしたこと」，「ケンちゃんに関すること」など， 部の範囲外のあらすじを書いているもの *「宇宙人がつりずきであること」，「近所では大きなさかなのいる星がすくなくなったこと」など，「はじめ」の部分に該当するような事柄については，内容の重複ととらえ，範囲外のあらすじであるとは判断しない。 *条件②を満たしているかどうかは不問とする。	3.1		
	9 上記以外の解答	16.3		
0 無解答	5.2			